豊明希望チャペル礼拝

2026/11/8

「人々はみな、食べて満腹した」

ルカの福音書 9：10～17

これは、よく車などに貼られているシールですが、キリストを表すとされている、クリスチャンには人気のシールかも知れません。



この教会にも何人かの方々が貼られているようですね・・

イクス(ト)ース（ＩＸΘΥΣ)、その意味は魚の、ギリシャ語です。この言葉が、神やキリストを示す頭文字で出来ているからですね。この際ですから、一応説明しておきますね。

ＩＸΘΥΣ：イクトゥス（魚）
ＩＨΣＯΥΣ　（イエースース、イエス）
ＸＰＩΣＴＯΣ　（クリストス、キリスト）
ΘＥＯΥ　（テウウ、神の）
ΥＩＯΣ　（ヒュイオス、子）
ΣΩＴＨＰ（ソーテール、救世主)



これらの頭文字をあわせたものです。意味は、「イエス・キリストを神の子、救い主と信じる」という信仰告白でしょう。この中の文字は、あとから付けたのかも知れませんで、魚のマークは、初代教会時代から各地で発見されています。その聖書的意味は、ヨナ書でヨナが魚に飲み込まれて命が助かったから、ペテロが釣った魚からコインが出てきたからなど、様々な説があるようですが、この魚マークがもっとも早く出てきたのは、クリスチャンが迫害を逃れてこもった、地下の墓地に刻まれた魚マークかも知れません。4 世紀のモザイク画には、こんな有名なものがあります。今日の箇所で取り上げられている、2 匹の魚と 5 つのパンのモザイクです。今日の箇所からの解釈という理解もあるかもしれないわけです。



あるカタコンベ(地下墓地)には、ずばり、こういうフレスコ画もあります。ローマ、ヴィア・アナポのカタコンベのフレスコ画で、3 世紀から 4 世紀のものです。分かりにくいですが、パンと魚の奇跡として、描

かれています。

また、こんな説明もあります。「ミラノ勅令以前のキリスト教徒は、迫害や処刑されるおそれがあったため、信仰を公にできなかった。そのため、 隠れシンボルとして次のように用いられたといわれる。まず、1 人の人間が明らかにランダムな直線や曲線を砂の上に描き、その線のうち 1 本を円弧にする(イクスースの半分)。もし、もう 1 人が地面に線を何本か描き足す中で形を完成させれば、2 人はお互いがキリスト教徒であると確認した。」(ウィキペディア)と。

ギリシャで、ローマで、またイスラエルでも、迫害に苦しむクリスチャンたちが、好んで描いたのが、この二匹の魚と 5 つのパンのモチーフだとも言われるわけですが、その思いの中にはどのようなものがあったのでしょうか。家を失い、財を失い、時に家族さえ失い、穴蔵、またカタコンベに閉じこめられ、そこに描いたのは、イエス様がしてくださった驚くべき奇跡の絵だったということです。自分達に残されたものは、本当にわずかになってしまった。わずかな食糧で、この迫害の時代、やっと命をつないでいるような有様、それはかつて、弟子達が、5000 人の飢えに対して、それを満たそうと探してみても、やっと見つけられたのは、たった５つのパンと 2 匹の魚。絶望的です。私たちは飢えて死ぬしかありません。しかし、私たちは、今、感謝します。生かされていることを感謝します。この身を貴方に献げます。貴方がすべてを献げて私を神の子どもとして下さったように、私も、わずかであっても、すべての持てるものを献げます。私を使って下さい。必ず、神は、ここからでも、必要とあれば、私たちの、この飢えたお腹を満たして下さる方なのですから・・そんな信仰告白があったのかも知れません。

その根拠となる今日の箇所、なお、残された時間、味わってまいりましょう。まずは、この奇跡が起きた経緯です。

「9:10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちがしたことをすべて報告した。それからイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町へひそかに退かれた。9:11 ところが、それを知った群衆がイエスの後について来た。イエスは彼らを喜んで迎え、神の国のことを話し、また、癒やしを必要とする人たちを治された。9:12 日が傾き始めたので、十二人はみもとに来て言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、彼らは周りの村や里に行き、宿をとり、何か食べることができるでしょう。私たちは、このような寂しいところにいるのですから。」」

ここにある問題は、つきつめると、「**何か食べることができるでしょう**」かという食、食事の問題です。イエス様の様々な奇跡が、聖書には書かれてありますが、その多くは、病の癒やしです。このような食べ物に関するという事に限れば、あとすぐ思い浮かぶのは、イチジクの木から実を取ろうとして、なかったので、その木を枯らしたという記事があります。また、これがもっとも重要だと思いますが、今日の箇所の冒頭にある、「**9:10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちがしたことをすべて報告した。**」という報告の内容は、ルカの福音書の前回見ましたように、使徒達が、宣教にはじめて遣わされる場面です。その時に、こう言われました。

「9:3「旅には何も持って行かないようにしなさい。杖も袋もパンも金もです。

また下着も、それぞれ二枚持ってはいけません。」

ここに、パンが出てきます。厳密には奇跡の報告ではありませんが、途中で飢えても、パンを持っていく必要がないこと、すなわち、パンを神が用意して下さると言う約束です。

この箇所は教育的奇跡とも言われる箇所ですが、そういう意味では、今日の箇所は、飢えた群衆に見せるための奇跡と言うより、使徒達、弟子達に、神は、神を信じる者に、必ず食事、食も保証していて下さることを教えることがその第一の目的であったと言えるのかもしれません。

すでに 12 節にあるように、そういう意味では、使徒達は、必要とあれば、神が食事を用意して下さることを、学んでいなかったという事になります。あるいは、自分たちは、この旅で、たしかにイエス様がおっしゃられたように、食事の困ったとき、必ず満たされた、イエス様が、パンも金の持っていく必要がないと言われて、その必要の満たしを約束して下さった事は本当だったが、それは、選ばれたわれら使徒へのものに限ると思ったでしょうか、しかし、この約束は、ある意味で、すべての人たちの必要を満たすことの約束である事を教えたということであろうかとも思います。どうなったか。たしかに、その約束は果たされます。



「9:13 すると、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが、あの人たちに食べる物をあげなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと二匹の魚しかありません。私たちが出かけて行って、この民全員のために食べ物を買うのでしょうか。」9:14 というのは、男だけでおよそ五千人もいたからである。しかし、イエスは弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい。」9:15 弟子たちはそのとおりにして、全員を座らせた。9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。9:17 人々はみな、食べて満腹した。そして余ったパン切れを集めると、十二かごあった。」

すべての福音書にこの記事は記録されていますが、ヨハネの福音書だけに、この 5 つのパンと 2 匹の魚は、ある少年のお弁当であった事が書かれています。

ルカにとって、その出どころは大きな問題ではありません。男だけで 5000 人ですから、女や、このような子どもも含めれば、2 万をも数える人数だったかも知れません。そのすべてが、「**食べて満腹した。**」と報告されます。

私たちは、ここから特に、教えられたいのは、最初に触れましたように、福音書の中で数少ない、生活の具体的な必要の問題、もっと直接的に、食事、肉体的なお腹が満たされることにも、イエス様は関与して下さることの幸いであります。



JECA 中部地区で先日行われた、オータムフェスには、240 名ほどの方々が集まられ、豊明希望チャペルは、おもに、奉仕を通して、参加させていただきました。託児、癌カフェの分会で、発表されたH夫妻や、証しをされたH姉。教会の活動報告をしてくださったK兄など、たくさんの感謝をいただきました。そこからたくさんの感謝の報告と証しの報告を伺うことが出来るのですが、私も少しだけ加わった会計面のことで、集会後、集計作業などをみなさんがして下さって、その報告の会話の中で、こんな会話がありました。

「(今、会計の残金が、) 手元に現在 8 万くらい残っています。まだ、会計整理中ですが・・(もう) 大きな支出がなさそう」です。

「8 万円の黒字 (って) 怖いです・・ね。何が起こったんだろう。。。笑」

確かに、たくさんの集会や、たくさんのブース、当然、赤字になるかも知れないという心配がありました。この試みを導いてくれた兄弟の言葉です。心配があったのです。ですから、これは、はたから見れば、小さな驚きかも知れませんが、当人にとっては、奇跡なのです。

私は、こう返しました。

「「何が起こったんだろう」それは、福音書の中の弟子達の驚きのような言葉ですね。」と。

彼はこう返しました。

「弟子の素質あるかもしれません www」

そうかもしれません。私を含めて、その確信が最初からあって、何の驚きもなければ、そうでしょう (笑)。私は、少しいじわるに、こう返しました。

「驚きがあると言うことは、弟子の素質がないとも言えるのですが (笑)」

もう一度、今日のこの箇所を確認します。

「9:16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、それらのゆえに神をほめたたえてそれを裂き、群衆に配るように弟子たちにお与えになった。9:17 人々はみな、食べて満腹した。・・」

イエス様が天を見上げて、与えられたものを感謝したとき、それは、起きました。

初代教会の人たちが、飢えの中で、カタコンベで経験したこと。そのことをこのように言いました。

「私たちは、今、感謝します。生かされていることを感謝します。この身を貴方に献げます。貴方がすべてを献げて私を神の子どもとして下さったように、私も、

わずかであっても、すべての持てるものを献げます。私を使って下さい。必ず、神は、ここからでも、必要とあれば、私たちの、この飢えたお腹を満たして下さる方なのですから・・そんな信仰告白」と。

そして、弟子達は、この出来事が、彼らへの教育的奇跡であったように、奉仕に必要なものが何もない、約束されていないとしても、必ず満たされると、宣教に派遣される前にイエス様に約束されたことが、この奉仕でも、目の前に現実となりました。すなわち。



「9:17 人々はみな、食べて満腹した。**そして余ったパン切れを集めると、十二かごあった。**」

主の召しに応えて行った奉仕、人々の腹が満たされても、奉仕者である彼らは、食事を取る時間もなく、お腹がペコペコだった、その使徒の分も必ず、イエス様は、神さまは、それが、お腹が減るという極めて肉体的な必要のことであっても、心をとめ、心配し、満たして下さると言うことであります。

さて、今朝、イエス様は、病の時の癒しばかりではなく、日々の必要、とりあえず、今日の飢え、今日の肉体的必要にも応えて下さる、与えて下さることを見ました。とりわけ、主の必要のために奉仕し、働く者には必ず。そのことを教えられました。

最後に、この聖書箇所も確認して終わりたいと思います。

「6:34 ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります。」

神の配慮は、私たちの生活のすみずみに及び、神の私たちへの愛は大きい。この確信を持って、今週の歩みを前に進ませていただきましょう。